戸塚区生活支援体制整備事業

地域福祉保健活動事例集

あなたに届けます！

「居場所」「生活支援」「見守り」活動

戸塚区地域ケアプラザ　第2層生活支援コーディネーター連絡会

発行元　社会福祉法人 横浜市戸塚区社会福祉協議会 / 戸塚区役所 高齢・障害支援課

～はじめに～

生活支援コーディネーターは、その人ができることを大切にしながら、高齢者などを支える地域の活動やサービスをコーディネートすることを主な役割としています。今回、区内で行われている「居場所」「生活支援」「見守り」活動を多くの人に知ってもらえるようにと、活動団体の皆様を取材して、本事例集を作成いたしました。お忙しいなか、取材にご協力をいただいた皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。今後も、誰もが安心して暮らすことのできる地域を目指して、ともに歩んでいきましょう。

戸塚区地域ケアプラザ　第2層生活支援コーディネーター連絡会

戸塚区では、高齢者がお住まいの地域で自分らしく暮らし続けることができるよう地域全体で助けあい、支えあう仕組み「地域包括ケアシステム」づくりを進めています。この取組は、区内 18 地区による「とつかハートプラン（地域福祉保健計画）」と、一体的に取り組まれています。このたび発行した「地域福祉保健活動事例集」には、日々行われている活動の内容、活動団体の思いや創意工夫がたくさん掲載されていますので、活動のヒントや活動参加へ一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いです。これからも、区役所では様々な団体の皆様と連携・協働しながら、これまで築いてきた“とつからしさ”や“とつかの魅力”を生かし、未来へとつながるまちづくりを進めてまいります。

戸塚区福祉保健センター担当部長　内田　沢子

区役所・地域ケアプラザ・区社会福祉協議会は、地域のご高齢の方が住み慣れた地域において「役割」や「居場所」など、生きがいを持って暮らせるまちづくりを進めています。この取組を更に充実させるため、平成 28 年度から生活支援体制整備事業が始まり、令和2年で5年目の節目を迎えました。

地域の皆さまに、これまで築いてきたまちづくりの様子や新たな地域活動の事例の報告会を予定していましたが、感染症への配慮から対面での開催は中止し、活動事例集の発行により報告会に替えさせていただく事にいたしました。

事例集作成にあたり、地域の皆さまや地域ケアプラザの所長をはじめ生活支援コーディネーターの皆さまには多大なご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

戸塚区社会福祉協議会　事務局長　安部　力

もくじ

見守り「見守る人も見守られる時代の到来を地域ぐるみで！」
汲沢地区見守り活動連絡会 …… 1

見守り・居場所「このまち大好き！」
坂本グリーンこころんプロジェクト …… 3

生活支援「『おたがいさま』日ごろのつながり　助けあい」
誰もが住みやすい「柏尾富士見台」を考える会 …… 5

居場所「食べる人も作る人もみんな楽しみ！」
なでしこ食事サービス …… 7

生活支援・居場所「～話し相手を探そうよ～川上第一団地の優しいまちづくり」
川上第一団地健康団地推進協議会 …… 9

居場所「心も体も元気になれる、にこにこハウス」
平戸平和台地区地域運営協議会　地域交流拠点「にこにこハウス」 …… 11

居場所「自然に恵まれた癒しの空間」
森のカフェこすずめ …… 13

生活支援「地域の力を一つに束ねて～長く支える仕組みづくり～」
公益社団法人　北汲沢地域総合福祉活動委員会 …… 15

生活支援・居場所「笑顔あふれる、みんなの居場所」
ＮＰＯ法人　いこいの家　夢みん …… 17

居場所「人と人がつながる、みんなの居場所」
ＮＰＯ法人　ふらっとステーション・ドリーム …… 19

生活支援「多様な主体のまちづくり」
企業連携！まちにコンビニがやってきた。 …… 21

各地域ケアプラザ　連絡先・事務局

「見守る人も見守られる時代の到来を地域ぐるみで！」

汲沢地区

見守り

汲沢地区見守り活動連絡会

まちの特徴

汲沢という地域は「歴史に支えられてきた地」と言えます。現在の県立横浜桜陽高校のある土地からは高校建設時に縄文時代の遺跡や出土品が多く発掘され「細田遺跡」と呼ばれました。
また汲沢の地を開拓してきた先人たちの生活を、五霊神社を始めとする【汲沢七杜】に見守られてきたことなどが今でも語り継がれています。地区内にある「まさかりヶ淵市民の森」を中心に緑豊かな土地である一方で山坂も非常に多いのが特徴です。
その他、生協戸塚病院や西横浜国際総合病院などの医療機関を始め、「汲沢地域ケアプラザ」「しらゆり園」や「ベタニヤ・ホーム」、そして「来夢の里」などの福祉施設が多く点在しています。

汲沢地区の風景
（横浜桜陽高校やぐみさわ東ハイツを望む）

横浜市名木古木にも選ばれた
宝寿院のしだれ桜

活動経緯

「汲沢地区見守り活動連絡会」は平成27年9月から話し合いを重ね、平成28年8月からスタートしました。超高齢化時代を迎え、民生委員・児童委員と一部地域の友愛活動員（老人会）だけの活動では対応が難しくなっています。特に民生委員・児童委員が実施している一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯、寝たきり高齢者、認知症高齢者などへの個別訪問活動がかなりの負担になってきています。この現状に鑑み、保健活動推進員や町内会自治会役員などにも見守る側に立って頂き、地域ぐるみで見守っていける体制づくりと活動が必須になってきたことから活動を立ち上げました。

連絡会では町内自治会で
グループに分かれて情報交換

エリア地域ケアプラザ	汲沢地域ケアプラザ
構成自治会町内会名	汲沢町内会、ぐみさわ東ハイツ自治会、大久保自治会、さつき町内会、ぐみさわ西団地自治会、ライオンズマンション戸塚第3自治会
発足年月日	平成 28 年 8 月
組織構成	地区社会福祉協議会、連合町内会、地区民生委員児童委員協議会、友愛活動員・老人クラブ連合会、保健活動推進員会
主な役割	福祉担当員：各町内会副会長 見守りサポーター：自治会役員、民生委員、保健活動推進員、友愛活動員、ボランティア

汲沢地区連合町内会の各町内会、自治会が一つの単位とし、「見守りサポーター」として活動しています。
見守りの対象は「一人暮らし高齢者」、「高齢者のみ世帯」、「寝たきり高齢者」、「認知症高齢者」などが中心となります。「見守りサポーター」には、氏名と所属する町内会自治会名及び汲沢地区社会福祉協議会名が入った名札を配布し訪問時には着用するようにしています。
また「汲沢地区見守り活動連絡会」の全体会を年3回開催し、各町内会、自治会での活動状況を全体で共有する機会を設けています。

インタビューに答えてくれた方

会長　石井 徹 氏
汲沢地区民生委員児童委員協議会会長

副会長　本田 馨 氏
汲沢地区社会福祉協議会会長

── 活動のきっかけを紹介してください。

本田さん　民生委員・児童委員（以下民生委員）だけが見守りするのではなく、みんなで見守らないといけない、という思いで始まった。ネットワーク訪問事業と言っても民生委員と友愛活動員はそれぞれ活動していたので横のつながりがなかった。「高齢者だけではなくもっと手を広げよう」と。町内会の中にはいろいろな団体がある。民生委員だけに負担をかけないように、青少年指導員や消費生活推進員等に声をかけた。平成 28 年８月、決起集会として第１回見守り活動連絡会を開催した。

── この活動をする上で大切にしていることはありますか。

本田さん　「人に対する思いやり」誰かを助ければ、いずれ返ってきて自分が助かる。決して楽な仕事ではないが、いずれ見守られる立場になる。

石井さん　見守る立場の人が負担のない形が理想。「雨戸開いてないね」「洗濯が取り込んでないね」とか、できる範囲で続けていきたい。

── 地区の様々な団体の人が大勢関わっているようですね。コミュニケーションは、どのように取られていますか。

本田さん　目指す方向を理解しているので、特にもめたりはしない。それぞれがその方にどういう接し方をするか、長年のつき合い、人間関係があるので百人百様の方法がある。民生委員は「お元気ですか」を持って訪問するが、見守りサポーターはそういった配布物がないので、その人の持っているノウハウで接している。

石井さん　63名の見守りサポーターがいるが、６町内会自治会、各々のやり方で取り組んでいる。３か月に１回、その代表が集まって情報交換している。

── 今後、見守り活動連絡会として取り組んでみたいことはありますか。

石井さん　メンバーは、１～２年で交代する人もいる。今は問題なく動いているが、ある程度決まったメンバーで続けるのが望ましいと思っている。

本田さん　色々な組織の人を引き入れたいが出来ていない。例えば消費生活推進員やスポーツ推進委員などは任期があり、退任される人も多い。一方で民生委員や老人クラブの役員などは、ずっと続けている人もいる。また町内会で温度差もあり、集合住宅と一戸建てでも違うと思っている。まずは町内会単位でブラッシュアップさせていく必要がある。

── 活動をしていく上で気になっている事はありますか。

本田さん　孤独死との遭遇。一人暮らしの高齢者に何かあったとき、誰に連絡をとればいいか。救急車の対応も必要になってくる。

石井さん　特に民生委員は、心配な人がいた場合に訪問回数を増やし対応したりしているが孤独死に遭遇することはある。救急車にも乗らないといけないときがある。

本田さん　個人情報保護法があることでシビアになっていること。例えば障害者など、周囲の住民が把握していないと本人の保護が遅れてしまう。臨機応変にできないと災害時等には、結果的に民生委員にしわ寄せがきてしまう。

石井さん　地区民生委員児童委員協議会の定例会で事例を話すことで大変さを共有している。見守りサポーターが訪問や声かけした件数をまとめるのも大変な作業だが、実績として数を把握して、形として残るようにしている。それぞれの自治会町内会の民生委員が集計して、取りまとめをしている。この活動のいいところは、色々な組織が入ってくれているところ。いろいろな目で見守っている。ちょっとした「助かったわよ」「元気出たわよ」という言葉がやりがいになっている。

編集後記

地域ぐるみでいろいろな方の見守りの目があるのは心強いなと感じました。

接し方も、長年のつきあいから百人百様で幅広いのも強みですね。是非自分のエリアでも参考にさせていただきたいと思います。

「このまち大好き！」

戸塚第三地区

見守り

居場所

坂本グリーンこころんプロジェクト

まちの特徴

エリアが東西に広く、地区内を横浜新道が通っています。一戸建て住宅やアパートも多くあります。坂道や傾斜地もあり、救急車が通れない細い道路やトンネルがあります。エリアの中心は、第六社（神社）で敷地内に町内会館もあります。

町内会主催の行事が多く、子供から高齢者まで参加し活気があり、老人クラブの活動も活発です。

急な坂道

活動経緯

平成28年頃、町内で孤独死が発生しました。また、75歳以上一人暮らしの高齢者も数多く、民生委員では、訪問も限界があります。また、民生委員の訪問対象者以外にも気になる方が増えてきました。

そこで、見守り方法を検討しようと平成29年5月11日に「坂本グリーンこころんプロジェクト」を立ち上げました。

メンバーは町内会長を中心に、民生委員2名、戸塚第三地区見守りネットワーク訪問事業デュランタ、戸塚グリーンヒル自治会元会長で構成され、オブザーバーとして上矢部地域ケアプラザ、戸塚区社会福祉協議会が参加しています。坂本町内会でどのように「見守り活動」を進めていくのか、話し合いを重ねてきました。

まずは、気になる人について、メンバーで情報共有をしました。そこで、気になる人を地図上におとした支え合いマップを作成すると、高齢者世帯が多いことや気になる人を複数の人が見守っていることが判るなど、様々な情報を共有することができました。

このような話し合いを経て、住民の「気になる人」の見守り体制の構築についての関心が高まり、「気になる人」を地域で見守りをするために、「訪問以外の手段を考えたい」からこころんカフェの展開につながりました。

また、このカフェは多世代交流も目的にしているので、参加した高齢者が子どもの見守りなどの役割作りにつながっています。今では、年10回程度、のべ200名程度の住民が参加しています。

こころんカフェのクリスマス！

支え合いマップ作り

エリア地域ケアプラザ	横浜市上矢部地域ケアプラザ
構成自治会町内会名	坂本町内会
発足年月日	平成 29 年 5 月 11 日
構成メンバー	町内会長、民生委員、ネットワーク訪問員等

坂本町内会で見守り活動のネットワーク作り、多世代交流サロン「こころんカフェ」の運営をしています。

インタビューに答えてくれた方

小川 朋子 氏 民生委員

会長 中島 茂 氏 坂本町内会

市原 みつよ 氏 デュランタ

── まちの様子を教えて下さい。

皆さんが町内会館まで来られた道なのですが、道路が狭くて緊急車両が通れない、車同士のすれ違いができません。また、エリアが横長でかなり広く、山が2つあります。上矢部高校の周辺から JR の線路際、そして上矢部ふれあい樹林から横浜新道にかけてなんです。エリアの中を横浜新道が横断していて、行き来するのも、とても大変です。町内会館は、神社の境内にあり、階段で上って行きます。スロープもあるのですが、高齢者などはここに来ることが難易度が高い、そのような場所です。

── 活動のきっかけについて教えて下さい。

現在、70 歳以上の高齢者が 250 名弱で年々増えています。その中で気になる方もかなり増えてきて、プロジェクトを立ち上げました。この広いエリアで効率的に見守りができるのか、民生委員だけに負担をかけるのではなく、住民全体でお互い助け合えるまちを目指し、地域ケアプラザや区社協にオブザーバーで参加してもらい毎月１回話し合いをしました。まずは、どこに高齢者や気になる人がいるのか知ってみようと、支え合いマップをメンバーで作成しました。最初、６名が自分の住んでいる近くの気になる人に声かけをすることをやりました。想像以上に世帯が多くて、１人で１００世帯の対象者をみるような形だったんです。それでもう少し仲間を増やさなくてはいけないと声をかけ、今はメンバーが１２名で、一人４０世帯程度を対象にしています。

次に気になる人が孤立しないようにするには、どうするのか考えました。そこで、誰でも気軽に参加できる「こころんカフェ」を始めました。メンバーが気になる人にちらしを配り参加してもらっていますが、やはりまだ会場まで歩くのが大変で来れない人もいます。カフェが終わった後、振り返りの会議で来れない人とのコミュニケーションをどうするのかを話し合っています。楽しそうなチラシを配って、これを見て楽しそうと思ってもらったり、当日の様子を伝えながら、お菓子をお土産に持っていくときもあります。根気よく声をかけた結果、カフェに来てくれる人もでてきました。そんな時は、みんなで「○○さん、来てくれたね。よかったね。」と喜びました。

── 活動をする上で大切にしていることはありますか。

「お互いに助け合っていこう」、「このまちに住んでいて良かったね」と思ってもらえれば良いと考えています。見守り活動では、気難しそうな人もいますが丁寧に関わっていくことで、徐々に距離が縮まっています。カフェでは、参加者が自然に話す場になるように、私達が押し付けないように心がけています。みんながくつろいでいる、それが大切だと思っています。時間をかけて、いい場所ができているんだなと思います。みんなで支え合うこういうところがあるんだよ、そういった声かけができていけば、いいなと思っています。

── 見守り活動やカフェの運営などに携わっている活動者のコミュニケーションは、どのようにされていますか。

見守り活動に関わっている人は、「支え合いマップ」の気になる人の情報更新の会議を年数回行うことで困ったことや悩みなどを話しながら、コミュニケーションをとっています。

── 今後は、どのような展開を考えていますか。

見守り活動は、支え合いマップを活用して、災害時の安否確認に展開できればと考えています。カフェは、会場が坂の上なので、別の場所をさがそうかなと。ここが良いとは思っていません。もう少し平坦で高齢者が来やすい場所がいいなと思ってて、空き家などが活用できないか探しています。いずれにせよ、少しづつ取り組みを進めていきます。

編集後記

ゆっくりと色々な活動を進めてきた坂本グリーンこころんプロジェクト。メンバーの想いに答えるように、一人また一人と仲間が集まり、見守りの輪が広がっていくのですね。

「『おたがいさま』日ごろのつながり　助けあい」

柏尾地区

誰もが住みやすい「柏尾富士見台」を考える会

生活支援

まちの特徴

富士見台という名のとおり、高台にあり天気の良い日は富士山がよく見えます。道幅も広く縦横きれいに区画された戸建て住宅地です。坂が多く、買物に行くときや駅に出るには坂の上り下りがあります。高齢化が進んでいますが、夏と冬にふれあいまつりを開催し、老人会がグランドゴルフで子どもたちと交流を持ったり、バザーを行ったりしています。年に 5 回一斉清掃を行い、エリア内の 3 つの公園や大階段など 5 か所の清掃を皆で行っています。食事会やサロン開催など一年を通じて活発な取組があります。

住宅街は、40 年前くらいからできた一戸建てがほとんどです。分譲時に同じような年代で入居しています。全体の半分以上が 65 歳以上の高齢者世帯です。

バスの中の会話も楽しみ♪

たくさん買えました

スーパーにて楽しくお買い物

活動経緯

戸塚区社会福祉協議会（以下区社協）主催で開催された「社会福祉法人と地域つながる連絡会」（区内社会福祉法人と地域住民との懇談会）にて、地域課題について意見交換がされました。そこでは、柏尾地区は、山坂が多く、買い物に困っている高齢者が多い事が話題になっていました。平成 29 年 11 月第 1 回「誰もが住みやすい『柏尾富士見台』を考える会」を開催し、ライフヒルズ舞岡苑、恒春の丘、リハパーク舞岡の3施設と区社協、舞岡柏尾地域ケアプラザ、秋山民生委員が参加しました。ここでは、地域の高齢者の状況が報告され、社会福祉法人が地域貢献として買い物移動支援の実施することが決まり、お試しで数名の参加者をスーパーまで送迎するプレ送迎を実施しました。翌月第2回を開催し、振り返りや今後の実施方法、事故時の対応について話し合いをし、本格的な買物送迎が始まりました。

エリア地域ケアプラザ	横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ
組織構成	柏尾富士見台自治会、（社福）親善福祉協会、（社福）豊笑会

月2回、近隣の3つの福祉施設が交替で送迎車による買物送迎を行っています。行先はアピタ戸塚店とマルエツ戸塚舞岡店。希望者の取りまとめは民生委員が行い、当日は見守りボランティア1名と共に同乗します。参加者は目印の缶バッジを服に付けています。

インタビューに答えてくれた方

事務局長　秋山 洋子 氏
柏尾地区社会福祉協議会

事務長　藤巻 直哉 氏
（社福）親善福祉協会 特別養護老人ホーム 恒春の丘

理事・施設長　中島 いづみ 氏
（社福）豊笑会 特別養護老人ホーム ライフヒルズ舞岡苑

取材メモ

令和２年 10 月 27 日（火）　横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ
令和２年 11 月 ５ 日（木）　ライフヒルズ舞岡苑

── 活動のきっかけを教えてください。

秋山さん　高齢で車を手放す人も増えてきたので、近所のお友達やヘルパーさんに買い物を頼んでいる方もいますが、自分の目で見て買いたいという声が多いです。「誰もが住みやすい『柏尾富士見台』を考える会」で地域のお困りごとを話せたことが今につながっているように思えます。

中島さん　デイサービスの送迎中、このまちを通るとき、利用者さんはどこに買い物に行っているのだろうと思ってました。ダイエーがなくなってしまい買い物に行くところがないとの声を聞き、とても気になっていました。そんな時に、社会福祉法人と地域つながる連絡会で秋山さんから高齢者が買い物に困っていると話を聞いて、社会福祉法人として何かできないかと検討し、買い物送迎なら協力できると思いました。

── 活動していく上で大切にしていることは、ありますか。

秋山さん　「お互いさまで助け合うこと」ここで交流をもてれば顔見知りの関係になれるので、車中ではおしゃべりがたえず、サロンのように楽しんでいただいています。

── 今回、関わっている社会福祉法人は、戸塚区でも先駆的に地域貢献をされています。法人としてどのようにお考えですか。

藤巻さん　普段、ドライバーさんは地域の方と話す機会はほとんどないですが、買い物支援をすることで、交流することができます。こちらから施設の情報発信もできるので、施設を知ってもらう機会につながっています。また、地域貢献の一環として災害時の応援協定も締結しています。

中島さん　今、在宅で生活している方でもいずれは私たちがお手伝いするかもしれないので、施設を知ってもらうことと、何かの時は「ここが力になるよ」と、よりどころになれればと考えています。

── 今後、取り組んでみたいことを教えて下さい。

秋山さん　外出を控えている高齢者も多いので、社会全体が落ち着いて、買い物に行けるようになるといいねと言われています。早く再開できるようになればと思っています。

藤巻さん　少しずつ地域との関わりができてきたところでコロナ禍になってしまいました。高齢者の施設なので地域活動の再開は難しいですが、再開に向けて、ソーシャルディスタンスがとれるような車両の購入も検討しています。

この活動は、現在２法人で対応していますが、区内には、他にもたくさんの法人があるので、広げていければと思います。誰かが声をあげてくれれば助けられることは多いはず。社会福祉法人だからできることを区社協と連携して地域とつながり、貢献していきたいと考えています。

中島さん　現在は、買い物の時間が正午前になっています。30 分でも１時間でも延長して、昼食をとったり、お茶をする時間をいれてもいいのではないかと考えていました。行きは送っていくけど、帰りはゆっくりしたいから自分で帰るっていうのも良いかな。もう一つ、施設内の会議室や休日のデイサービスのフロアを使っていただくのはどうかと思っていました。坂の上で来づらいかとは思いますが、広さがあり、バリアフリーでトイレも広く身体の不自由な方も使いやすいので場所の提供をしたいです。坂なので送迎付きなど課題をクリアしていきたいです。

編集後記

今回、取材をするにあたり、関係者の方やそれらを取り巻く人のあたたかい思いを伺うことができました。今後についてのやり取りの中では、みなさんが次から次へと意見やアイデアが出てきて、地域への想いが強く伝わってきました。「地域ともっと繋がるにはどうしたらいいか」「他にも助けられることがあるはず」と常に前向きに考えていらっしゃって、それを実行する行動力は、今後私も見習っていかなくてはと感じました。末尾になりなましたが、今回お忙しい中ご協力をいただきました皆様には心より感謝申し上げます。

「食べる人も作る人もみんな楽しみ！」

下倉田地区

居場所

なでしこ食事サービス

まちの特徴

下倉田地区は、かつて鎌倉郡豊田村と呼ばれていて、名所旧跡も多くある地区です。その後、倉田地区という名称になり、平成 13 年に上倉田地区と分かれるまで、一緒に活動していました。古くから代々住んでいる住民と新しくできたマンションや分譲住宅の住民が混在しています。また、坂道がとても多く、通称「いろは坂」と呼ばれている場所もあります。昔は、どこに行くにも坂を上り下りしながら駅や買い物に行っていました。明治学院大学横浜キャンパスができて、バス便がよくなり、高齢者は、バスに乗って、目的地に行くことができるようになりました。

坂道がとても多い街並みです。

活動経緯

倉田地区社協の頃に、上倉田地域ケアプラザ（以下 CP）を会場に高齢者を対象とした「はなみずき食事会」を立ち上げスタートしました。その後、2つの地区に分かれた際に、会場を下倉田CP に移し「なでしこ食事サービス」として始め、今年で 17 年目となりました。

月に 3 回活動をしています。調理を下倉田 CP で行い、お弁当として自治会町内会館を中心に9つの会場に VO が配達をしていました。会場では、民生委員と VO がそれぞれミニデイサービスを行っていて、配達された手作りのお弁当を昼食としていました。活動当初は、お弁当配達を VO が行っていましたが、だんだんと、高齢化や担い手不足などが課題となってきました。

そこで、エリア内にある福祉施設「戸塚共立　結の杜　下倉田」に相談をしたところ、快諾を得ました。 下倉田CPで10 名ぐらいの VO が調理した 60 食の食事を施設のドライバーが各会場まで配達し、お弁当箱の回収も行ってもらっています。参加希望者が多く、対象者を決めないと対応できないほど地域の方は楽しみにされています。一方で参加者が高齢化し、会場まで来られないことが理由で参加者数が減って、終了したところもあります。

ミニデイ弁当配達

ミニデイ食事の様子

VO 手作りのお弁当

エリア地域ケアプラザ	横浜市下倉田地域ケアプラザ
構成自治会町内会名	グリーンパーク戸塚ヒルズ自治会、コスモ戸塚自治会、下倉田鋼管団地自治会、幸ケ丘自治会、下倉田町内会、戸塚リベラヒルズ自治会、野村下倉田自治会、富士ケ丘自治会、ブロードスクエア戸塚自治会、小松ヶ丘公園自治会

インタビューに答えてくれた方

副会長 安齋 勇二 氏
下倉田地区社会福祉協議会

川喜多 由利恵 氏
下倉田地区社会福祉協議会 なでしこ食事サービス担当

ドライバー 二階堂 幸夫 氏
戸塚共立 結の杜 下倉田

――「なでしこ食事サービス」が 17 年間継続して活動していく上で色々な課題があったと思いますが、どのように会として対応してきたのですか。

安齋さん　長く続けていくうえで、色々な課題がありました。ボランティア（以下VO）の高齢化、担い手不足など、様々な局面を迎えるたびに、みんなで話し合いをしながら、どうすれば続けられるのか、考えてきました。平成 30 年に VO の高齢化を理由に配達が行えなくなり、同時進行で活動していた食事会（会場はＣＰ）も参加者の高齢化により中止になってしまいました。そこで、「戸塚共立　結の杜　下倉田」さんに配達を依頼したところ、快く引き受けてくれたので、今の活動があります。

また、VO の高齢化も課題になってきていたので、徐々に次の世代の方に入ってもらおうと、地域の集まりなどで、「楽しいよ、和気あいあいやっているよ、料理が覚えられるよ」と活動の PR を行いました。その PR 活動と友人や知人のつながりから、新しい VO が入ってくれるようになりました。

――「戸塚共立　結の杜」として、このお弁当の配達が施設の地域貢献活動の一環となっていますね。エピソードなどありますか。

二階堂さん　施設では、地域貢献活動の一環として、「からだ元気！体操教室」を地域向けに開催しています。今回のお弁当配達協力の依頼についても、時間が許す限りならということで引き受けました。ドライバーは２名が交代で行っています。６０食を３つのトレーに載せて配達していますが、重たくて、車から会場まで運ぶのが大変で、階段がある会場もあるので、結構体力を使いますね。また、昼食の時間に合わせて配達をするから時間の制限もあります。少し遅れていくと、「まだかな？」とお弁当が届くのを会館の外で待っている方もいて、皆さん心待ちにしています。

――　多くのVOが関わっていると思いますが、大切にしている事はありますか。

安齋さん　VOは長く活動をしている方が多いです。

ボランティア活動なので、無理をしないでご自分の都合の良い時に参加をしてもらいたいと思っています。

担い手は 60 ～ 70 歳代、80 歳代の方も来ていて、「料理が好き・料理をやってみたい」など楽しみに来ている方もいるし、続けられなくなりお辞めになる方もいます。

活動しながらいろいろな人と話したり、料理を覚えたり、道具の使い方を覚えて、勉強になったり、やりがいにつながったりしています。

VO はあくまでも自主的、「無理しなくてよいですよ」の声かけが大切で、都合が悪くなった時は、VO 同志で声を掛けて交代してもらうこともあります。

――　今後について教えてください。

安齋さん　コロナ禍によって年内の活動は中止とし、それ以降もどうするのか検討しています。調理ができない場合は、お弁当を買ってスタートしても良いと思っています。VO には、親睦も兼ねて、感染症対策についての勉強会を予定しています。参加者はおしゃべりをしたくて参加するから、その時にどう対応するかが課題ですね。ある程度の体制を整えたいと思います。

編集後記

なでしこ食事サービスは、戸塚区でも歴史のある食事サービスグループです。人が入れ替わりながら、長い期間にわたって活動を続けてきたこと。「担い手」という課題がありながら、地域住民や施設に協力を仰ぐことで解決されてきていました。特に、お弁当運びの人材が見つからない時に「戸塚共立 結の杜 下倉田」に協力を得られたことは大きな出来事ではないかと思います。

インタビューを通して多様な主体が連携しながら、地域福祉を推進する、これからのまちづくりの可能性を聞くことができました。

「～話し相手を探そうよ～川上第一団地の優しいまちづくり」

東戸塚地区

居場所

生活支援

川上第一団地健康団地推進協議会

まちの特徴

川上第一団地は横須賀線東戸塚駅から徒歩 10 分。北側には郵便局や診療所などがある大通りが近いのですが、大通りやバス乗り場までは坂道が続いています。南側は横浜新道沿いの高台で、団地と戸建てが建ち並んでいます。団地内は棟と棟の間隔が十分に取られていて日当たり良く、イチョウ並木が続いています。

旗が目印

活動経緯

平成 28 年神奈川県より「健康団地」の取組について提案があり、「健康づくりの一環」として団地の空室を利用した、地域の保健・医療・福祉の拠点づくりについて検討を始め、川上第一団地健康団地推進協議会が立ち上がりました。

川上第一団地県営アパート自治会において、住民アンケートを実施したところ通院と買い物が困りごととしてあがりました。平成 28 年 12 月ふれあい東戸塚ホスピタルによる「無料医療バスの運行」が実現しました。また、平成 29 年9月にイオンによる「移動販売車」が団地内3か所を回り買い物ができるようになりました。

そして、平成 29 年 10 月活動拠点として「憩いの部屋」が開所しました。

演奏会の様子

移動販売車

医療バス

エリア地域ケアプラザ	横浜市東戸塚地域ケアプラザ
発 足 年 月 日	平成 28 年

団地の空き部屋を活用し、「憩いの部屋」として住民の交流拠点作りを運営

①健康教室、無料戸別訪問

毎週木曜日にふれあい東戸塚ホスピタルと共催し、介護予防や健康に関する活動を実施

②生活を彩るお花のサークル

毎月 1 回、季節に合わせた工作や生け花をし、お茶会など

③憩いのカフェ

毎月 1 回、童謡や演奏会、講座などの催しを行いつつ、お茶を飲みながらおしゃべりをするなど住民同士の交流の場

インタビューに答えてくれた方

会長 清水 豊司 氏
川上第一団地健康団地推進協議会

清水 弘子 氏
川上第一団地健康団地推進協議会

大松 敦代 氏
川上第一団地健康団地推進協議会

平向 咲子 氏
川上第一団地健康団地推進協議会

── まちの様子を教えて下さい。

川上第一団地は、東京オリンピックが行われた昭和 39 年にでき、入居し始めて 55 年位経ちました。その頃、若い世代はアパートに住むことを希望する人が多くて、子供も沢山いました。この団地も歳をとってきたもので、子どもが巣立って、独立して、高齢者ばかりになりました。４階建て５階建てが 14 棟、近隣に分譲アパートと戸建てがあって、それぞれ３つの自治会で構成されています。

── 企業や大学と連携した取り組みをしていますが、きっかけを教えて下さい。

高齢者が多くて、買い物は山を下りないといけない、帰りは荷物を持って上がらないといけず困っている人が大勢いました。そこで区社協に相談したところ、イオンが週２回移動販売を来てくれることになりました。現在では、毎回多くの方が買い物に来ています。

移動支援は、東戸塚駅までのバスの本数が少なくなり、病院も行けないとの声がでて、住民アンケート調査をし、集計を行いふれあい東戸塚ホスピタルの地域担当者に集計結果を見せて相談したところ、病院までの専用バスを出してくれることになりました。しかし、日によっては、乗車人数が誰もいない時もありますが、その状況でも良いと承諾をしてくれました。

この付き合いがきっかけで、憩いの部屋にホスピタルの医師と看護部長が月１～２回来てくれて、病気について相談すると相手に合わせ専門的なアドバイスをしてくれました。次に来た時にどうだった?と聞いてくれる先生だったので住民も非常に喜んで憩いの部屋に来ていました。

湘南医療大学の学生も来てくれています。実習として骨密度や体力検査をしてくれています。孫世代の学生とおしゃべりができるので、住民からも人気があります。そのおかげで大学とのつきあいができました。

── 憩いの部屋についてお聞かせください。

憩いの部屋では、お茶のみ会を行ったり、季節の年中行事の習わしなどを紹介した「耳寄りな話」を作って、みなさんに配っています。また、住民の健康相談を受けたり、趣味活動をしたりなどもしています。また、車いすの方が来られるようにと県がスロープを設置してくれました。

── 活動するうえで大切にしていることはありますか。

企業、大学、支援機関との横のつながりを作り、情報共有することを大事にしています。また、来るのを待っていないで、自分たちから積極的に声をかけるようにしています。

── 活動者同志のコミュニケーションの取り方

電話で話をするくらいです。みんな同じ考えや活動について理解してくれる仲間です。

── 最後にひとことお願いします。

バスを出したり、移動販売や憩いの部屋を始めたりと色々な取り組みをしてきました。

リーダーがいて、仲間がいて助かりました。この活動が継続できればと思います。

みんなが憩いの部屋に気楽に来てくれて、顔見知りが増えていくでしょ。そうすれば、みんなに優しいまちになっていくんじゃないかな。

編集後記

川上第一団地の取り組みは、集合住宅の様々な課題について、施設や企業と連携しながら解決していく事例です。区内にも多くの集合住宅があり、同じような課題を抱えている団地もあり、参考にしたいと思います。

「心も体も元気になれる、にこにこハウス」

平戸平和台地区

居場所

平戸平和台地区地域運営協議会

地域交流拠点「にこにこハウス」

まちの特徴

戸塚区の北東部に位置し、3 つの町内会で構成されています。保土ケ谷区、南区と隣接しています。北側のJR東戸塚駅に近いところには、近年マンションや一戸建てが立ち並び、新しい居住者も増えています。連合町内会、町内会等が主催する夏祭りやもちつきなど、年間を通して様々な交流行事が開催されています。

地区内をバスが走行し、最寄りのJR東戸塚駅までの交通の利便性が高いです。山坂が非常に多く、高齢者にとっては、買い物などに不自由な反面、足腰を鍛えられ健康には良いとの複数の側面があります。また、エリア内に平戸地域ケアプラザ（以下CP）が山の上にあります。

2020 読売福祉文化賞
高齢者部門 受賞

にこにこハウスの庭で
キャンドルナイト

平戸平和台地区の街並み

活動経緯

平成 28 年、平戸 CP 第 2 層生活支援コーディネーターが地域のアセスメントを行った結果、日常的な居場所の必要性を求められていることがわかりました。そこで、住民に声をかけ、居場所探しを始め、翌年、エリア内中心部に位置する空き家を借りることになりました。そこで、町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会の代表者、オブザーバーとして平戸CP、区社協、区役所が参画し、空き家活用について検討する「平戸平和台地区空き家活用プロジェクト」を立ち上げました。その後、平戸平和台地区地域運営協議会に組織変更しました。

その後、広報紙「にこにこ通信」を発行し、運営委員が中心となり各種事業活動を始めました。

みんなで楽しく食事中

歌声サロンのクリスマス

事業名	対象者	開催回数 ※有料	概　　要
カフェえんがわ	限定せず	月～木　午前 ※	セルフサービスのコーヒーや紅茶を楽しめるカフェ
にこにこサロン	限定せず（主に高齢者）	毎月２回　10 時～15 時 ※	毎月２回開催しているランチ付きサロン。参加者が調理に参加している。
みんな集まれランチ会	限定せず	毎月１回　12 時～14 時 ※	季節感にあふれた手作りのランチを提供
子育てサロン「にこにこきっず」	未就園児の親子	毎月１回　10 時～12 時 ※	親子で工作、読み聞かせなどを行う
にこにこ相談室	限定せず	毎週月　10 時～12 時	民生OBによる何でも相談
宵のロサロン	限定せず	年４回　（不定期）※	アルコールと簡単なおつまみを提供する交流会
貸　　室	限定せず	毎日　10時～17時 ※	住民が誰でも使用できる

エリア地域ケアプラザ	横浜市平戸地域ケアプラザ
構成自治会町内会名	平戸 1 丁目町内会、平戸 2 丁目町内会、平戸 3 丁目町内会
発足年月日	平成 29 年 7 月
組織構成	連合町内会、地区社協、地区民児協、町内会、その他

平成 29 年	3 月	平戸平和台地区空き家活用プロジェクト発足
同年	7 月	平戸平和台地区地域運営協議会発足
同年	8 月	広報紙「にこにこ通信　第1号」発行　各種事業活動開始

インタビューに答えてくれた方

岡野 保恵 氏
運営協議会事務局

中村 藤季子 氏
運営協議会会計

杉﨑 勝夫 氏
運営協議会事務局

取材メモ　令和２年10月27日（火）　地域交流拠点「にこにこハウス」

── にこにこハウスの立ち上げのきっかけについて教えてください。

この地区には、文房具、駄菓子などを売るお店「にこにこ屋」があり、お年寄りや子どもが店先の椅子に座っておしゃべりをしていました。

「ふらっと立ち寄って、顔見知りの誰かとおしゃべりをする。にこにこ屋さんみたいな、場所が近所にあるといいよね」と空き家探しが始まり、今に至っています。

── 活動内容を教えてください。

様々な事業活動をしています。

「カフェえんがわ」は、ふらっと立ち寄れる場所で、だれでも自由に参加でき、セルフサービスのコーヒーやお茶を飲みながら集まった人たちと話をしています。

「にこにこサロン」は、高齢者の居場所として開始しました。昼食は、参加者も一緒に作っているので、自分で作るのが楽しみで参加している方もいます。片付けもしているんですよ。料理以外に、手芸やおしゃべり、中には縁側で昼寝をする人もいます。ボランティアは、やりたいことの方向性が同じなので、こまごましたことは各自で考えて行っています。そのため、イベントや何か行うときはスムーズに役割分担が決まります。

「みんな集まれ！ランチ会」は、地域食堂として、子どもから高齢者まで誰でも参加できる食事会です。季節感あふれる手作りのランチを提供しています。クリスマスには、サンタクロースも参加します。

「にこにこ相談室」は、元民生委員（３名）がちょっとしたお困りごとの相談を電話や来館にて受けています。相談内容によって、各種専門機関につないでいます。

「宵のロサロン」は、他のサロンに参加する男性が少ないため「お酒を出したらくるかも！」という発想からワンコインでおつまみ（手作り）とお酒を提供しています。足りない方は、お菓子・お酒を別に買ってもらっています。年に４回行っていますが、参加する男性陣からは、楽しみにしていて、毎週もしくは毎月やってほしいとリクエストされています。

「にこにこきっず」は、未就園児を対象として、工作や読み聞かせなどを行っています。若いお母さんは「おばあちゃんの家みたい」と広い畳の部屋や障子があることを気に入っています。

貸室利用の一環として行っている「にこにこライブラリー」は、紹介型読書会を開催したり、ハウスの一角に図書コーナーを設け、本の貸出も行っています。「各種サークルや教室」等でもお部屋の利用をしていただき、空き家を有効活用しています。

── 色々な活動をされているんですね。活動する上で大切にしていることは、ありますか。

運営者の私たちが、「自分たちが楽しくやる！！」それが相乗効果として、にこにこハウスに遊びに来る参加者も楽しんでいます。

ここの地域は付き合いが長くつながりもありますが、新しく来られた方に対して皆が気遣ってくれますので抵抗なく仲間に入れます。平和台地区だけでなく、バスに乗ってくる方もいらっしゃいます。

── 活動をする上で困ったこと、苦労したことを教えて下さい。

皆さんが「あ・うん」の呼吸でやることを分かっていて役割分担もできています。そのため、苦労したことはないです。チームワークが良いことで、１周年のイベントを行った時もそれぞれが役割をしっかりと果たし、参加者を巻き込んで素晴らしいものができました。

── これからやってみたいこと

男性は地域とつながっていることが少なく、家にこもりがちなので、外出してつながる機会を作るためにも「宵のロサロン」を始めましたが、新型コロナウイルスの影響で休止中です。１日も早く開催できるようにしたいと思っています。

編集後記

このインタビューの後、12月13日（日）に読売新聞紙上にて「２０２０読売福祉文化賞　高齢者部門受賞」のお知らせがありました。空き家を活用した様々な事業活動が評価されたようです。今後は、お祝いを兼ねたイベントを企画しているそうで、にこにこ通信で発表するとのことです。

「自然に恵まれた癒しの空間」

大正地区

居場所

森のカフェこすずめ

まちの特徴

昔は「鎌倉郡小雀村」といいました。明治22年に、田谷村、金井村、長尾台村とあわせて長尾村大字小雀となりました。大正4年に、富士見村、俣野村、長尾村をあわせて大正村大字小雀となり、その後、昭和14年鎌倉郡から横浜市になるとき、昔の村の名前をとって小雀町ができました。

現在は、人口約4,400人（高齢化率30.9%）、約2,000世帯（令和2年3月末時点）、東側は栄区、南側は鎌倉市に隣接し、小雀浄水場や小雀公園もあり、ホタル観賞等も楽しめる自然豊かな地域です。循環乗合バス（こすずめ号）が小雀浄水場方面から大船駅まで運行されています。

各種町内会行事や小雀文庫、カフェ等、様々な活動に取り組まれ、ホームページを開設し、情報発信に努めています。

自然豊かな緑多いまち小雀（航空写真）

お買い物にも便利な
「こすずめ号」（小雀⇔大船駅）

活動経緯

平成29年5月、小雀町エリアを対象にした地域ケア会議・協議体を原宿地域ケアプラザ（以下CP）が開催しました。会議では、地域の良いところや強み、課題などを出し合い、地域の方々と共有を図りました。のちに協力施設となるハートケア横浜小雀も地域支援への視点をもち参加しました。平成30年5月、小雀町を対象にした地域ケア会議・協議体の2回目を開催し、前回共有した地域課題の再確認と、一人でも多くの方々が地域活動に参加してもらうためのアイデア出しを行いました。それを経て、小雀町内会・ハートケア横浜小雀・原宿 CPで令和元年8月、「地域の集いの場」として、検討会（毎月1回開催）を立ち上げました。検討会開催に至った経緯、協力者（保健活動推進員中心）や協力施設のできることできないことを確認し、カフェを開催する方向性としました。その後、毎月1回検討会を開催し、他地区のカフェの見学、町内会や敬友会（老人クラブ）等の活動を確認し、実施にむけての話し合いをしました。

令和元年 12 月 20 日「森のカフェこすずめ」を開催しました。

森のカフェこすずめはこちらで…
「小雀町内会館」

エリア地域ケアプラザ	横浜市原宿地域ケアプラザ
構成自治会町内会名	小雀町内会
発足年月日	令和元年８月
構成メンバー	保健活動推進員、小雀町内会、介護老人保健施設ハートケア横浜小雀

小雀町内会を対象エリアとしたサロン活動。令和元年8月「地域の集いの場」検討会を立ち上げ、小雀町内会館を活用し、居場所づくりを行った。令和元年12月に第1回目を開催した。

インタビューに答えてくれた方

地域支援担当 土門 順子 氏	会長 福井 和巳 氏	森川 章代 氏
医療法人社団 協友会 介護老人保健施設 ハートケア横浜小雀	小雀町内会	保健活動推進員

── まちの様子を教えて下さい。

福井さん　小雀町は、マンション等の集合住宅が少なく、戸建てが多いまち並みです。カワセミやホタルの姿もみられる小雀公園に代表されるように、緑豊かな所です。昭和40年代にようやく商店が 1 軒、2軒とできましたが、坂道が多く、買い物が不便なまちでした。こうした折、10年余前から地元の事業者運営のコミュニティバスが大船までの買い物等の送迎を担ってくれています。これから高齢者も増えてくるので、通院等にも活用が期待されます。

── 活動のきっかけを教えてください。

土門さん　「森のカフェこすずめ」は、小雀町内会の住民を中心とし、令和元年12月から始めたばかりの団体です。この「森のカフェこすずめ」とハートケア横浜小雀が最初に関わるきっかけとなったのは、平成29年５月に参加した小雀町を対象とした「地域ケア会議・協議体」でした。平成30年にも同会議に参加し、少しずつですが地域の皆さんとの関係性を築くことができたと思います。その後、原宿CP生活支援コーディネーターと平成30年10月、他区から赴任してきた私とで、地域に根差した活動で何か出来ないか・共に活動して頂ける方々はいらっしゃらないかとの問いかけに、福井会長から、積極的に活動をされている保健活動推進員の方々を推薦されました。

森川さん　会長からの推薦や保健活動推進員が集まる体操教室等もきっかけに「地域で何かしてみない?カフェでもしてみようか。」と言う話になりました。

── 活動内容を教えてください。

森川さん　「森のカフェこすずめ」には、私の他に担い手は6～7名です。令和元年の 12 月に第1回のサロンを開催したところ、30名もの地域の方々が参加してくれました。開催当初は、「誰もが楽しめる居場所づくり」をスローガンに、お茶を飲みながら会話をするサロンでした。しかし、担い手の方々や参加者からは沢山の声掛け・アイデアが出され、季節を感じられることがあったら良いのではとの発想もあり、様々な作品作りも始めました。そして、５月に折り紙で兜を作る予定だった矢先に、新型コロナウィルス感染拡大防止の為、３回開催実施後、休止となりました。数回の開催ですが、参加者の方々からも、お茶をするだけではなく、なにか活動出来る場所にしようと、「森のカフェこすずめ」に思いを寄せる意見が多く出ています。皆さんの意見を大切にし、地域に根差したカフェになっていけば良いと思います。

── 地域住民の思いが詰まっているサロンなんですね。一緒に活動している施設として、どのように感じますか。

土門さん　小雀町の地域の方々が地域づくりに対して、とても前向きであり、団結力があり、すぐに行動に移して頂ける地域であると感じました。また、ご近所同士のコミュニケーションもきちんととれていると思いました。

── 活動に際し大変だった事を教えてください。

福井さん　小雀町はとても広く、開催場所の町内会館は坂の上のため、高齢者にとって集う場所が課題となっています。また、多世代交流も行っていきたいと思っていますので、これから子供たちも気軽に来られるようにみんなで考え、つくり上げていきたいです。

　現在、コロナ禍ということもあり、新たに設けることは難しい状況です。

森川さん　再開の折には、歌を歌ったり、読書会を開催したり、地域の方々が得意とすることを持ち寄り、集まった方々と楽しいひと時を共有できる居場所を展開していきたいです。

編集後記

　立ち上がったばかりの「森のカフェこすずめ」ですが、今回のインタビューを通して、いろいろな想いを聞くことができました。今は、コロナ禍ということもあり、通常通りの活動は難しいと思いますが、カワセミの鳴き声にも劣らぬカフェから楽しい笑い声の聞こえる日を心待ちにしています。

「地域の力を一つに束ねて～長く支える仕組みづくり～」

北汲沢地区

生活支援

公益社団法人

北汲沢地域総合福祉活動委員会

まちの特徴

戸塚区の中では最も海抜が高く泉区に隣接している地区です。横浜市営地下鉄踊場駅付近から西側斜面に広がる住宅地で、富士山や丹沢の山々が眺められる風光明媚な環境です。

昭和 30 年代から建てられた戸建て住宅が多く、約 2,000 世帯あり、居住年数は戸塚区内で1番長くなっており、3世代で同地区に暮らしている家庭も多く見られることが特徴です。

一方で地理的に高低差があるので、坂道が多いことから最寄りの公共交通機関のバス停や鉄道の駅に出るにも時間がかかり課題となっています。

傾斜が急な坂が多くあります。

区内で一番高い海抜 48m。
富士山が良く見えます。

日常生活支援

活動概要

●外出支援活動（福祉有償運送事業）

ドライバー（男性 7 人、女性 3 人）が個人所有の車両を利用し、送迎しています。年間利用者は約 2000 人、主な利用者は 60 代から 90 代の高齢者となっています。目的地として「病院・診療所」、「福祉施設」、「スーパー・店舗」、「公共施設」、「公共交通機関の駅や停留所」、「金融機関・郵便局」などに行っています。

利用料金：300円/2km以内　以降100円/1km（待機料金：150円/30分）

●日常家事支援活動

ゴミ出し（1 回 100 円）、電球の取り換え、樹木の剪定、草むしりなどを行っています。

女性ドライバーも活躍中！

エリア地域ケアプラザ	汲沢地域ケアプラザ
構成自治会町内会名	富士見町内会、東明西町内会、東明東町内会、新生自治会、六郎丸町内会
平成 10 年1月	自家用車を利用した送迎ボランティア「わっぱ乃会」発足（担い手：18 人、利用者：65 人、年間 1,400 回）
平成 16 年	道路運送法が改正された為に活動は休止
平成 21 年	「総合福祉活動委員会」発足 第1回　北汲沢地区全世帯アンケートを実施
平成 23 年3月	一般社団法人「北汲沢地域総合福祉活動委員会」発足
平成 25 年5月1日	公益社団法人「北汲沢地域総合福祉活動委員会」発足し、「外出支援活動（福祉有償運送事業）」、「日常家事支援活動」の認可を得る
平成 29 年2月	第2回　北汲沢地区全世帯アンケートを実施

インタビューに答えてくれた方

理事長　宮沢 忠男 氏
（公社）北汲沢地域総合福祉活動委員会
（北汲沢地区連合町内会副会長）

事務局長　加藤 邦雄 氏
（公社）北汲沢地域総合福祉活動委員会
（北汲沢地区連合町内会長）

── 活動のきっかけを教えて下さい。

富士山が戸塚区でいちばん良く見えるのが自慢です。良く見える一方で、それだけ坂道があるということですね。高齢者は歩いて公共機関に行けない、それを克服するために送迎活動を自主的にはじめたのがスタートです。

平成10年に、自家用車を利用した送迎ボランティア「わっぱ乃会」を発足させ、その後6年間に渡り地域の皆さんに喜ばれながらやっていました。ところが法律が改正され、活動は休止せざるを得ない状況になってしまいました。

これを機に、地域の福祉活動やボランティア活動の見直しをし、「総合福祉活動委員会」を立ち上げました。

この委員会では、まず住民のニーズを知る為に全世帯アンケート調査を行いました。その結果、送迎活動はもちろん草むしり、家具の移動など生活支援ニーズも多く集まり、これらを事業化しようという思いを強く持ちました。

この結果を踏まえて、特に送迎活動を再開する為には法人化するしかなく、対象が地域限定としたことから「一般社団法人」となりました。そして、「福祉有償運送事業」の登録申請をする為に横浜市本庁へ出向きましたが、「このような地域での送迎は歩くのがつらい、駅まで大変だといった高齢者は対象ではない」と言われ断られました。「例えば横浜医療センターまで行くのに徒歩、電車、バスを乗り継いで約2時間近くかかる。それが車だったら 10分で行ける。全然ちがうでしょ?」と。高齢者の現状を話し、ボランティア活動であることを詳しく説明したところ、担当者の理解を得ることができ、ようやく送迎活動を再開することが出来ました。

その後、地域の高齢者を対象としたボランティア活動は公益性が高いということから、神奈川県へ公益社団法人について相談へ行きました。「これはすきま産業です。民間がいくら頑張ってもできません。私たちのようなところでないとできないです」と説明し理解を得ようとしましたが、担当者からは「いや、こんなちっぽけなところではできないよ」と言われ、断られました。何度も県庁に通い説明した結果、「外出支援活動（福祉有償運送事業）」と「日常家事支援活動」の2つの取組が「日常生活支援事業」として、認定を受けて現在の「公益社団法人北汲沢地域総合福祉活動委員会」となりました。

── 活動をする上で、大切にしている事ありますか。

「信頼関係」だと思います。利用者もボランティアもお互いを信頼した上で成り立っている活動だと思います。

国土交通省が心配しているのは、苦情や事故などです。地域のボランティアの延長だからね。苦情は、ないですね。逆に喜ばれています。そして、無事故です。そういった点では皆さん注意しているから、自慢ですね。市はびっくりしている。「何も起きていませんね」と。

── 活動者同志のコミュニケーションのとり方はどうされていますか。

月1回運転記録を提出してもらっていて、いつ何分に出て…、というのを全て記録しています。それを見て「あれ、こんな遅い時間に…ダメだよ」なんて言ったりすると「でも頼まれるとね」なんて・・・。我々はあくまでもボランティアだからそこまでやってしまうとさ、とそんな話をしながら日頃から連絡をとり、コミュニケーションを図っています。

── これからやってみたいことをお聞かせ下さい。

担い手が高齢化になってきているので、「若返り化」、これが課題です。男性は皆、定年をむかえたら自分の趣味とかをやるっていってそっぽむかれちゃうんだけど、女性は子供会やったりとしてきたから頼むとやってくれる。担い手を増やすと同時に若返りをしていきたい。そういった意味では女性が3名入ったというのは評価していきたい。

自分の仕事を誰に引き継ぐか、ですね。誰かにひきつがなくちゃいけない。今いちばん考えている。継続するには担い手の交代か育成でしょうね。それとね、信頼関係ですよね。

編集後記

昔から続けてきた活動を、制度や地域の声に合わせて変化させながら、地区独自のやり方で活動に取り組んでこられた経緯を伺うことができました。必要なことを必要な方に届けることができる、その仕組みづくりが「おたがいさま」の縁づくりにつながっているのですね。

「笑顔あふれる、みんなの居場所」

大正地区

居場所

生活支援

NPO法人 いこいの家 夢みん

まちの特徴

昭和 47 年ごろに、旧ドリームランドの敷地の一部を利用して開発をされた集合住宅地で、近隣には、俣野公園、横浜薬科大学があり、医療・福祉・行政などの様々な機関と連携し、住民主体のまちづくりを行っています。

赤い看板が目印です

活動紹介

● 交流・居場所事業

・介護予防プログラム：交流・学び・趣味・健康の分野で曜日別に開催

・認知症対策：認知症カフェ「ゆめサロン」と「介護者のつどい」を実施

・多世代交流：子ども将棋・学習支援

・拠点活用：地域の福祉団体・自主サークルへの活動場所の提供

・住民向け講座及び研修の実施

● 生活支援事業（ボランティアバンク・えん）

・住民同志の助け合い活動（家事支援、見守り、移動支援（会員制））

笑顔あふれるゆめサロン

ボランティアバンク・えん　車いす研修

ボランティアバンク・えん　生活支援活動

エリア地域ケアプラザ	横浜市深谷俣野地域ケアプラザ
平成 8 年	団地の一室に高齢者のためのサロンを開設
平成12年	特定非営利活動法人となる（4月） 横浜市介護予防通所介護事業を受託（10 月）（～平成18年）
平成18年	横浜市介護予防通所介護事業終了、以降独自の介護予防プログラムを実施
平成26年	空き店舗へ移転し、多世代交流サロンを開設 「あしたのまち・くらしづくり活動賞」を受賞
平成28年～	ボランティアバンク・えんと地域給食の会を夢みんに統合
平成29年10月	横浜市介護予防・日常生活支援総合事業（サービスB）を受託

NPO 法人　いこいの家　夢みん

〒245-0066　戸塚区俣野町 1404-6　TEL&FAX　045-853-0480

インタビューに答えてくれた方

理事長 伊藤 眞知子 氏

NPO 法人　いこいの家　夢みん

── まちの様子を教えて下さい。

ドリームハイツは、築 47 ～ 48 年で、その当時入居された方も多く、今では高齢化が進んでいます。半数が 65 歳以上ですが、元気な高齢者が多く、住民主体で様々な活動を生み出してきました。ここ数年、独居や認知症、比較的若い世代の引きこもり、心の病を持っている方の問題も聞かれるようになりました。

── 活動のきっかけを教えて下さい。

地域の活動に関わって 40 年近くなりますが、きっかけは子どもを入れていた自主保育の幼児教室「すぎのこ会」です。夢みんの中心メンバーは、ほとんどが当時からの関わりで、70代が活躍しています。平成 7 年、準備会がスタートし、高齢者のためのサロンを開設しました。平成12年、NPO法人にし、その事がメンバーそれぞれの地域での役割と責任を自覚するきっかけになりました。その後、横浜市介護予防通所介護事業を受託して、独自の介護予防プログラムとして、歌やランチ、カルチャーサロン（地域の現役をリタイアした男性に得意な分野の発表をしてもらう）などを実施してきました。その後、拠点を空き店舗に移転し、多世代交流サロンとしてリニューアルました。令和元年の利用人数は、1 万人近くの方が利用しています。現在は、介護予防プログラム（健康麻雀、歌声喫茶、よいのくちサロンなど）、認知症対策（ゆめサロン、介護者の集いなど）、多世代交流（子ども将棋、楽習ルームなど）を実施しています。

ボランティアは、サロン手伝いやお菓子作り、広報紙のポスティングなど約 50名います。毎年更新をして、できることや時間を申告して活動してもらっています。

また、住民アンケートから、毎日の暮らしの中で、病気やけが、いざという時の不安を抱えている人が多いことが分かり、歳を重ねても、体が不自由になっても安心して住み続けられる地域を目指して「住民同士の助け合い活動　ボランティアバンク・えん」をスタートしました。家事援助の他、室内作業（修理や重い荷物の移動、ゴミ出し）など、男性ボランティアも活躍しています。元気な高齢者が、手助けが必要な方の困りごとに対応しているのが現状です。

ボランティア登録は約 120 名、実際に活動している方は約半数です。年間 1600 件ほどの依頼や相談を受けています。

── 居場所作りから生活支援まで、住民ニーズを基に様々な活動を積極的にされていますが、活動をする上で大切にしていることをお聞かせください。

サロンは、「居心地の良い交流の場所」として、スタッフと利用者が共に楽しめる雰囲気を大切にしています。さらに、生活支援についてもひとりひとりの状況に合わせ、きめ細やかな配慮を心がけています。

── 活動者同志のコミュニケーションは、どのようにとられていますか。

運営委員は月1回開催される運営委員会での話し合いを大切にしています。必要に応じて臨時の委員会を開催し、最近はグループ LINE を使って、こまめに情報を共有しています。それぞれの得意なことを活かし、トップダウンではなく、全員が役割を持って、適材適所で活動しています。

── これからやってみたいことはありますか。

将来に向けて、スタッフの世代交代が課題です。そのためには、より広く、夢みんの活動を知っていただき、若い方たちのアイデアでこの拠点を有効活用し、さらに将来の担い手確保や活性化に繋がるといいと思っています。

高齢になっても、認知症になっても、人との繋がりを持って、安心して暮らせるよう、地域の中で役割を果たしていきます。

編集後記

日本社会が核家族化の進展から超高齢化社会へと大きく変化する中、ドリームハイツでは早くから住民自治の先進的な取組みが行われて来ました。

思いを同じくする団体が集まった「いこいの家夢みん」と多くの地域ボランティアの皆さんが、いまもその中心を担っています。

コロナ禍による初の緊急事態宣言下でも、見守り活動やいつでも駆け込むことができるサロンをオープンするなどの対策にいち早く取組んでいます。

今回、取材をさせていただき、自助・共助に基づくまちづくりの精神に触れ、改めてこの活動が継続、発展するためのお手伝いをさせていただきたいと思いました。

取材に協力していただいた皆様、ありがとうございました。

「人と人がつながる、みんなの居場所」

大正地区

居場所

NPO法人

ふらっとステーション・ドリーム

まちの特徴

昭和 47 年ごろに、旧ドリームランドの敷地の一部を利用して開発をされた集合住宅地で、近隣には、俣野公園、横浜薬科大学があり、医療・福祉・行政などの様々な機関と連携し、住民主体のまちづくりを行っています。

俣野公園・横浜薬科大学周辺からの
ドリームハイツの風景

活動概要

- **サロン事業**
  月～土曜日ランチ、喫茶
- **マイショップ事業**
  地域住民等による出店、販売
- **文化交流事業**
  ピアノ、ジャズ、琴等のコンサート開催、写真、絵画等の展示
- **地域運営支援事業**
  心の病の人達の居場所提供
- **情報・相談に関する事業**
  ホームページ更新、ふらっと通信発行、まちの保健室、総合事業

心のこもった日替わり手作りランチ

美味しいと評判の手作りランチの様子

間口が広いスペースです

エリア地域ケアプラザ	横浜市深谷俣野地域ケアプラザ
平成 17 年	「ドリーム地域給食の会」「NPO 法人ふれあいドリーム」「NPO 法人いこいの家 夢みん」の福祉3団体が、横浜市市民協働提案事業として、空き店舗活用のコミュニティカフェを開設
平成 20 年	特定非営利活動法人となる
平成 24 年	横浜市指定 NPO 法人となる
平成 26 年	「フリースペースぽぽら（精神の人たちの居場所）」の活動開始
平成 30 年	横浜市介護予防・日常生活支援総合事業（サービス B）を受託
同　　年	共同通信社と地方新聞社が主催の「第 8 回地域再生大賞」関東・甲信越ブロック賞受賞
令和元年	相談事業「まちの保健室」開始

NPO 法人　ふらっとステーション・ドリーム

〒245-0067　戸塚区深谷町 1411-5　　TEL&FAX　045-307-3558
ホームページ　http://furatto-std.sakura.ne.jp/

インタビューに答えてくれた方

理事長　松本 和子 氏
NPO法人ふらっとステーション・ドリーム

── まちの様子を教えて下さい。

47年前に、周辺一面田んぼだったところがドリームハイツになりました。その時に、市と県の供給公社が分譲して、2270世帯が一斉に入居したんですね。30代の子育て世代が中心でした。

周りに何もなくて、小学校が1つ、幼稚園が1つ、駅からも距離があり「陸の孤島」と呼ばれていたこともありました。そのような中で、住民が必要なものを一つひとつ作っていき、子どものこと、親のこと、その後、障がい者等へと広がっていきました。

地域でどのような問題があり、どうしたら良いか話し合い、住民で解決してきた、住民自治でやってきたその結果、子育て世代も高齢者も住みやすい地域となりました。

── 住民が主体となって、まちを作ってきたんですね。団体の活動を教えて下さい。

ふらっとステーション・ドリームは平成 17 年にすでに立ち上げていた給食の会・ふれあいドリーム・夢みんの3団体からそれぞれメンバーを出して作ろうとなり、最初は横浜市の市民提案協働事業の助成金と有志がお金を出し合って始めました。

名前の由来「ふらっと」には3つの意味が込められています。

〇誰でも「ふらっと」入ることができる

〇人と人が「ふらっと」な関係である

〇建物内がバリアフリーで「ふらっと」である

最初は喫茶から始まって、続いて「おうどんだけでもよいね。」となり、そこからランチ中心になっていきました。地域の主婦達が腕をふるい、とても美味しいと評判のランチで、誰でも食べることができます。

マイショップは、立ち上げ時から行っていて、地域の方が自分の手作り作品を売買できるスペースを提供しています。

そして3年前、国の介護保険制度が変わって、横浜市介護予防・日常生活支援総合事業（サービスB）といって地域の要支援者の通いの場所として指定され、麻雀、歌や体操などを行っていますが、現在はコロナ禍により一部のプログラムを中止しています。

── 活動する上で、大切にしている事はありますか。

誰にとっても役割りと居場所が身近な地域にあれば、「ふらっと」も、みんなの居場所になればと思っています。スタッフにとっても居場所になっていて、体が動かなくなっても必ずできることはあります。皆がハッピーだと私達もハッピーです。

外からの風、つながりを大切にしています。外へ出ていくか、来てもらうか、そういう風が入ってこないと、よどんでしまいます。地域も団体も同じ、連携は大事です。

子育て時代から一緒にやってきた仲間との関係がずっと続いていて、支え合ってきました。それぞれの得意なことを活かして、「ふらっと」へ続いています。

── 今後、やってみたいことはありますか。

深谷台地域運営協議会という、ネットワークがあって、1団体では解決できない課題を解決するネットワーク団体なんです。そこに多世代交流拠点検討委員会があります。新たな拠点を、夢を描きながら手探りしています。形になったら、まちのシンボルになるのではないかと思っています。若い人に興味をもってもらえる、中心になって活躍してもらえるのではないでしょうか。

テレワークが主流になっていくのであれば、ここで働くことができるのでは?そういう場所になったらいいなと思っています。

またボランティアをやりたいという方は必ずいると思うので、多世代に広がっていくことを期待しています。

編集後記

ドリームハイツの有志の方々の思いから開設されたふらっとステーション・ドリームには、いつも、スタッフや地域の方々の楽しい笑い声、ランチの美味しそうな香りが満ち溢れています。

料理上手なスタッフが健康を気遣って作る日替わりランチは、毎日通う方がいるほど評判が良く、男性のファンも多いようです。

日頃から地域の方に心を配った声掛けをされ、コロナ禍による緊急事態宣言下においても、電話による見守りや一人暮らし高齢者に食事を届けるなど、地域の繋がり、人との繋がりを絶やさないように支えて来られました。

今回、取材をさせていただき、自助・共助に基づく地域の繋がり方を改めて学び、この活動が継続・発展するためのお手伝いをさせていただきたいと思いました。

取材に協力していただいた皆様、ありがとうございました。

区域

生活支援

企業連携！まちにコンビニがやってきた。

活動概要

全国的にここ数年、コンビニエンスストアやスーパー等による移動販売が盛んになってきています。戸塚区でも山坂が多く、近所に店舗がないエリアに週に１～２回程度、移動販売車が野菜やお惣菜やお菓子などの食料品やトイレットペーパーなどの日用品などを販売しています。販売している会場は、大きな団地や福祉施設の駐車場、民家の庭先など様々です。ここでは、区内で行われている移動販売の取り組みについて紹介します。

暑い日はおやつにアイスクリーム

民家＊移動販売

柏尾地区

令和２年６月、コロナ禍で買い物に行けない方がいるとのことで、自治会内の民家に協力をいただき、庭の駐車場を会場として提供してもらいました。当初は、移動販売だけに住民が来ていましたが、今では、始まる前から自然に集まり、椅子に座りながらおしゃべりをして待っています。また、月に１回の「野菜市」も始まり、青空交流の場となっています。

◀民家の庭で販売中

▶移動販売が始まる前は、おしゃべりタイム

地元企業＊移動販売

平戸平和台地区

地元企業（建設会社）からの声かけで、地域貢献の一環として駐車場を提供してくれることになりました。近隣住民が誰でも知っている場所なので、移動販売車が来てもすぐにわかります。大きな駐車場にゆったりと商品を広げることができるので、ゆっくりと買い物ができます。

▲大きな駐車場で移動販売

買い物かごにたくさん買っています

移動販売者	小浦石油㈱　ファミリーマート小浦平戸2丁目店
販売頻度	週に1～2回
販売エリア	平戸地区、柏尾地区、南戸塚地区 など

戸塚区内では、ファミリーマート以外にもイオン、ローソン、地元の農家やパン屋など色々な移動販売があります。興味のある方は、エリア内の地域ケアプラザ生活支援コーディネーターにお気軽に相談ください。

インタビューに答えてくれた方

次長 **田中 喜美** 氏
小浦石油 株式会社 東京支店
コンビニ事業部 開発課

店長 **加藤 太一郎** 氏
小浦石油 株式会社
FamilyMart 小浦平戸２丁目店

── 移動販売を始めたきっかけを教えて下さい。

平成 29 年、ファミリーマート小浦平戸２丁目店が地域住民を交えて座談会を実施しました。その時、平戸地域ケアプラザ（以下 CP）　生活支援コーディネーターが参加しており、その方から「高齢者が多いのでゆくゆくは移動販売をしてみては」と声をかけられました。その後、法人内で検討し、移動販売を行うことになりました。初めての取り組みでしたので、平戸 CP、区社協と協力し、住民説明、会場探しなどを行いました。

今は、宅配やネットショッピングなどがありますが、お店の中で車いすに乗ってホームヘルパーと一緒に買い物にきている高齢者が、自分の目で見て欲しいものを選んで楽しそうに買い物をしている姿をみて、来店が難しい方も同じように買い物ができるようにこちらから出向くことができる移動販売をしたいと思いました。そこで、平戸 CP、区社協に相談し、現在に至っています。

── どのように事業活動をされていますか？

移動販売は、ファミリーマートの商品や青果市場で仕入れた野菜や果物を一緒に販売しています。区内では、４ヶ所で行っています。会場探しは、地域の方が自主的に探してきたところや企業からの声かけなどがあります。それらの意見を基にエリアの CP や区社協と連携し、始めています。最初は、人が集まりませんでしたが、だんだんと増えてきました。特にコロナ禍ということもあり、これまでは高齢者が中心でしたが、若い世代や子育て世代の方などが来られています。また、重い物を購入した方は、店員が玄関まで届けたり、事前に電話で注文される方などもいらっしゃいます。

もうすぐ １ 年が経過しますが、住民との信頼関係ができてきていると実感しました。

── 苦労したこと、うれしかったこと、エピソードはありますか。

雷や台風など危険な天候の時に開催するかしないか迷う時があります。今日は、この天候だから来ないかなと思いつつ行ってみると、遠くから傘をさしながら杖をつき歩いてくるお客さんをみかけると来てよかったなと感じます。

また、自宅まで荷物を運ぶのが難しい方は、運んだりしています。毎回来ていた方が、何回か来なくなると何かあったのか心配になり、自宅に直接伺ったりしています。ある方は、役所の方から安否確認の状況について聞かれた時「ファミリーマートが毎週来てくれる」と答えたようです。

── 今後について、お聞かせください。

移動販売は、その地域のコミュニティ作りにも一役を担っています。車が来るまで、ベンチに座ってお話したり、知り合いに会ってお話をしたりしたりとなかなか買い物が始まらない時もあります。普段は外出しない方が移動販売の時だけ外に出てくる方もいらっしゃいます。

定着していきているので、稼働日数を増やし、販売エリアも拡大できればと考えています。

また、最近では月に1回、特別な思いを込めて、市場直送の新鮮な野菜をメインにした「野菜市」を開催しています。野菜市を開設したことで、普段の移動販売に来られない方も来るようになりました。毎回、大盛況で始まる前から長蛇の列ができています。

── 買い物中のお客様にもインタビューしました。移動販売を利用されていかがですか。

・野菜などは自分の目で見て買えるので安心しています。また、重い物は、玄関まで運んでくれるので助かっています。

・外出するのが大変なので、毎回配達してもらっています。配達のお兄さんが来てくれないと一日誰とも話さないこともあります。とてもいい人だから安心して頼めます。いざとなったらファミリーマートの店に連絡しようと思ってチラシを電話の前に貼っています。

編集後記

「このまちは、山坂が多く、買い物に困っている方が大勢いる。」住民の声を生活支援コーディネーターが企業に伝えたところから、この移動販売の取り組みが始まっています。地域住民だけでは、解決できない課題を企業と連携して解決の糸口を見つける。生活支援体制整備事業が目的としている「多様な主体のまちづくり」の実践事例を取材することができました。またこの取り組みは、移動販売だけではなく、お客さん同士のつながり作りも担っていることも学びました。お忙しい中、取材に協力して頂きありがとうございました。

戸塚区地域ケアプラザ一覧

横浜市上矢部地域ケアプラザ	〒245-0053　戸塚区上矢部町 2342	☎ 045-811-2442
横浜市東戸塚地域ケアプラザ	〒244-0805　戸塚区川上町 4-4	☎ 045-826-0925
横浜市上倉田地域ケアプラザ	〒244-0816　戸塚区上倉田町 259-11 （公団コンフォール上倉田1階）	☎ 045-865-5700
汲沢地域ケアプラザ	〒245-0062　戸塚区汲沢町 986	☎ 045-861-1727
横浜市平戸地域ケアプラザ	〒244-0802　戸塚区平戸 2-33-57 （市営住宅 1 階）	☎ 045-825-3462
横浜市原宿地域ケアプラザ	〒245-0063　戸塚区原宿 4-36-1 （市営住宅 1 階）	☎ 045-854-2291
横浜市舞岡柏尾地域ケアプラザ	〒244-0813　戸塚区舞岡町 3705-10	☎ 045-827-0371
横浜市南戸塚地域ケアプラザ	〒244-0003　戸塚区戸塚町 2626-13	☎ 045-865-5960
横浜市下倉田地域ケアプラザ	〒244-0815　戸塚区下倉田町 1951-8	☎ 045-866-2020
横浜市名瀬地域ケアプラザ	〒245-0051　戸塚区名瀬町 791-14	☎ 045-815-2011
横浜市深谷俣野地域ケアプラザ	〒245-0067　戸塚区深谷町 1432-11	☎ 045-851-0121

発行元

横浜市戸塚区社会福祉協議会	〒244-0003　戸塚区戸塚町 167-2 戸塚区福祉保健活動拠点フレンズ戸塚	☎ 045-866-8434
戸塚区役所　高齢・障害支援課	〒244-0003　戸塚区戸塚町 16-17 戸塚区総合庁舎 2 階	☎ 045-866-8439

令和 3 年 3 月 発行